

公 開  
資 料 3

第 3 1 7 回 幹 事 会  
公 開 審 議 事 項

令和3年10月28日

日 本 学 術 会 議

## 公 開 審 議 事 項

| 件名・議案                 | 提案者   | 資料<br>(頁)                  | 提案理由等<br>(※シンポジウム等、後援関係については概要を記載) | 説明者   | 根拠規定<br>等  |   |
|-----------------------|---|----------------------------|------------------------------------|---|------------|---|
| <b>Ⅲ 公開審議事項</b>       |   |                            |                                    |   |            |   |
| <b>1. 委員会関係</b>       |   |                            |                                    |   |            |   |
| 提案 1                  | (機能別委員会)<br>科学者委員会<br>委員会委員の決定<br>(追加1件)                              | 科学者委員会委員<br>長              | 4                                  | 科学者委員会における委員の欠員に伴い、委員を決定する必要があるため。  | 望月副会<br>長  | 内規第18<br>条                                    |
| 提案 2                  | (分野別委員会)<br>(1)運営要綱の一部改<br>正(所属委員会の追<br>加1件)<br>(2)分科会委員の決定<br>(追加2件) | (1)薬学委員会委員<br>長<br>(2)第三部長 | 5-7                                | 分科会の所属委員会追加に伴い、運営要<br>綱を一部改正するとともに、分野別委員<br>会における分科会委員を決定する必要が<br>あるため。   | 会長<br>第三部長 | (1)会則<br>27条1項<br>(2)内規<br>18条                |
| 提案 3                  | (分野別委員会合同分<br>科会)<br>第三部合同分科会小<br>委員会委員の決定(新規<br>1件)                  | 第三部長                       | 8                                  | 第三部理工学ジェンダー・ダイバーシ<br>ティ分科会における小委員会委員を決定<br>する必要があるため。   | 第三部長       | 内規18条   |
| <b>2. 協力学術研究団体関係</b>  |   |                            |                                    |   |            |   |
| 提案 4                  | 日本学術会議協力学<br>術研究団体を指定す<br>ること   | 科学者委員会委員<br>長              | 9                                  | 日本学術会議協力学術研究団体への新規<br>申込のあった下記団体について、科学者<br>委員会の意見に基づき、指定することと<br>したい。<br>①九州公私立音楽大学学会<br>②絵本学会<br><br>※令和3年10月28日現在2,096団体(上<br>記申請団体を含む)          | 望月副会<br>長  | 会則36条   |
| <b>3. 国際関係</b>        |   |                            |                                    |   |            |   |
| 提案 5                  | 令和3年度代表派遣<br>について、実施計画<br>の変更及び派遣者を<br>決定すること                         | 会長                         | 10                                 | 令和3年度代表派遣について、実施計画<br>の変更及び派遣者を決定する必要がある<br>ため。   | 高村副会<br>長  | 国際交流<br>事業の実<br>施に關す<br>る内規第<br>19条2<br>項、21条 |
| <b>4. その他のシンポジウム等</b> |   |                            |                                    |   |            |   |
| 提案 6                  | 公開シンポジウム<br>「戦後アジアの地域<br>再編と学術の共同—<br>分断・協調・再分断<br>を超えて—」の開催<br>について  | 地域研究委員会委<br>員長             | 11-14                              | 主催：日本学術会議地域研究委員会アジ<br>アの地域協力と学術ネットワーク構築分<br>科会<br>日時：令和3年12月4日(土)12:45～<br>17:45<br>場所：オンライン開催 ※日本学術会議<br>講堂が使用可能であればハイブリッドで<br>の開催の可能性あり<br>※第一部承認 | —          | 内規別表<br>第1                                    |
| 提案 7                  | 公開シンポジウム<br>「グリーンリカバ<br>リーへの植物保護科<br>学の貢献」の開催に<br>ついて                 | 農学委員会委員長                   | 15-16                              | 主催：日本学術会議農学委員会植物保護<br>科学分科会<br>日時：令和3年12月4日(土)13:00～16:50<br>場所：オンライン開催<br>※第二部承認   | —          | 内規別表<br>第1                                    |

|      |   |   |       |  |   |        |
|------|---|---|-------|--|---|--------|
| 提案8  | 公開シンポジウム<br>「第11回計算力学シンポジウム」の開催について   | 総合工学委員会委員長・機械工学委員長                      | 17-19 | 主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会<br>日時：令和3年12月6日（月）10:00～17:00<br>場所：日本学術会議講堂及びオンライン開催 他会議室1室<br>※第三部承認  | — | 内規別表第1 |
| 提案9  | 公開シンポジウム<br>「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会」の開催について         | 健康・生活科学委員会委員長、経済学委員会委員長、若手アカデミー運営分科会委員長 | 20-21 | 主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会、経済学委員会ワークライフバランス研究分科会、若手アカデミー<br>日時：令和3年12月11日（土）13:30～16:00<br>場所：オンライン開催及びYouTube配信<br>※第一部、第二部承認 | — | 内規別表第1 |
| 提案10 | 公開シンポジウム<br>「科学的知見創出に資する新可視化技術に向けて(7)」の開催について   | 総合工学委員会委員長                              | 22-23 | 主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会<br>日時：令和3年12月13日（月）13:00～17:30<br>場所：オンライン開催<br>※第三部承認  | — | 内規別表第1 |
| 提案11 | 公開シンポジウム<br>「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」の開催について（連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第2回） | 第二部長                                    | 24-25 | 主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会<br>日時：令和3年12月19日（日）14:00～18:00<br>場所：オンライン開催<br>※第二部承認  | — | 内規別表第1 |
| 提案12 | 日本学術会議中部地区会議主催学術講演会『SDGsに向けた大学の取り組み』の開催について   | 科学者委員会委員長                               | 26-27 | 主催：日本学術会議中部地区会議<br>日時：令和3年12月25日（土）13:00～16:30<br>場所：名古屋大学（オンライン配信）<br><br>※開催主体が地区会議のため、承認は幹事会のみ<br>※本学術講演会は8月幹事会にて承認を受けたが、開催日が延期後の総会日程と同日になったことから、学術講演会の日程を変更するもの。   | — | 内規別表第1 |
| 提案13 | 公開講演会「歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ～課題と展望について～」の開催について  | 歯学委員会委員長                                | 28-29 | 主催：日本学術会議歯学委員会、病態系歯学分科会<br>日時：令和4年1月13日（木）17:00～19:00<br>場所：オンライン開催<br>※第二部承認  | — | 内規別表第1 |
| 提案14 | 公開シンポジウム<br>「コロナ禍での感覚器障害のリスク」の開催について  | 臨床医学委員会委員長                              | 30-31 | 主催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会<br>日時：令和4年1月25日（火）14:30～17:00<br>場所：オンライン開催<br>※第二部承認   | — | 内規別表第1 |

|      |   |                 |       |   |   |            |
|------|---|-----------------|-------|---|---|------------|
| 提案15 | 公開シンポジウム<br>「動物科学の最前線：めぐるめく多様性を科学する」の開催について                   | 基礎生物学委員会<br>委員長 | 32-33 | 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会<br>日時：令和4年1月29日(土)13:00～16:00<br>場所：オンライン開催<br>※第二部承認                | — | 内規別表<br>第1 |
| 提案16 | 公開シンポジウム<br>「いま「戦争」を考える——社会学・社会福祉学の視座から」の開催について               | 社会学委員会<br>委員長   | 34-35 | 主催：日本学術会議社会学委員会<br>日時：令和4年1月29日(土)13:30～16:30<br>場所：オンライン開催<br>※第一部承認                                     | — | 内規別表<br>第1 |
| 提案17 | 公開シンポジウム<br>「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」の開催について | 総合工学委員会<br>委員長  | 36-38 | 主催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、IFEフォーラム<br>日時：令和4年2月3日(木)13:00～17:30<br>場所：日本学術会議講堂及びオンライン開催<br>※第三部承認 | — | 内規別表<br>第1 |

## 5. 後援

|      |              |    |    |  |    |                             |
|------|--------------|----|----|--|----|-----------------------------|
| 提案18 | 国内会議の後援をすること | 会長 | 39 | 以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。<br><br>①第2回生科連シンポジウム「環境変動と生物多様性」 | 会長 | 後援名義<br>使用承認<br>基準3(2)<br>ウ |
|------|--------------|----|----|--|----|-----------------------------|

## 6. その他

|    | 件名   | 資料(頁) |
|----|--|-------|
| 参考 | 今後の総会及び幹事会開催予定<br>今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は11月25日(木)13:30～開催。 | 40    |

## 【機能別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

(科学者委員会)

| 氏 名  | 所 属 ・ 職 名                   | 備 考   | 推 薦 |
|------|-----------------------------|-------|-----|
| 但野 茂 | 函館工業高等専門学校学校長、<br>北海道大学名誉教授 | 第三部会員 | 副会長 |

【設置：常置（細則第 10 条第 1 項）、追加決定後の委員数：15 名】

分野別委員会運営要綱の一部を次のように改正する。

| 改正後    |  |  |                |                     | 改正前    |  |  |                |                     |
|--------|--|--|----------------|---------------------|--------|--|--|----------------|---------------------|
| 別表第1   |  |  |                |                     | 別表第1   |  |  |                |                     |
| 分野別委員会 | 分科会等   | 調査審議事項   | 構成             | 設置期間                | 分野別委員会 | 分科会等   | 調査審議事項   | 構成             | 設置期間                |
| 薬学委員会  | 薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会 | レギュレーション組成システムのデザインにおける課題、ルール・オブ・ルール整備と運用のあり方、シンポジウムの内容、提言の内容について審議する。 | 20名以内の会員又は連携会員 | 令和3年5月27日～令和5年9月30日 | 薬学委員会  | 薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会 | レギュレーション組成システムのデザインにおける課題、ルール・オブ・ルール整備と運用のあり方、シンポジウムの内容、提言の内容について審議する。 | 20名以内の会員又は連携会員 | 令和3年5月27日～令和5年9月30日 |

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・  
機械工学委員会・材料工学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会

|   |                                     |   |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 所属委員会名<br>(複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。) | ○薬学委員会<br>政治学委員会<br>基礎医学委員会<br>総合工学委員会<br>機械工学委員会<br>材料工学委員会  |
| 2 | 委員の構成                               | 20名以内の会員又は連携会員  |
| 3 | 設置目的                                | 医薬、医療機器、再生医療等における先端医療技術の利用ルールを迅速に整備していくための「仕組みづくり」について多面的に議論し、社会実装におけるガバナンスとルール組成の在り方を提案することを目的とする。本分科会では、Good Guidance Practice や製品評価技術の適格性認定プログラム等の医療における「新技術や新製品の利用ルールや審査ルールをつくるルール」の整備を念頭に置く。ルール整備の初動から運用後の修正までの全体プロセスを明示し、幅広くステークホルダーを巻き込みながら、透明性と効率性を担保した先端医療におけるレギュレーション組成システムのデザインを目指す。 |
| 4 | 審議事項                                | レギュレーション組成システムのデザインにおける課題、ルール・オブ・ルール整備と運用のあり方、シンポジウムの内容、提言の内容について審議する。  |
| 5 | 設置期間                                | 令和3年5月27日～令和5年9月30日   |
| 6 | 備考                                  | ※所属委員会として材料工学委員会を追加するもの   |

【分野別委員会】

○委員の決定（追加2件）

（情報学委員会国際サイエンスデータ分科会）

| 氏名    | 所属・職名                            | 備考   |
|-------|----------------------------------|------|
| 近藤 康久 | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所・准教授 | 連携会員 |

【設置：第302回幹事会（令和2年10月29日）、追加決定後の委員数：14名】

（材料工学委員会バイオマテリアル分科会）

| 氏名    | 所属・職名          | 備考   |
|-------|----------------|------|
| 三浦 佳子 | 九州大学大学院工学研究院教授 | 連携会員 |

【設置：第304回幹事会（令和2年11月26日）、追加決定後の委員数：15名】

## 【分野別委員会合同分科会】

## ○委員の決定（新規 1 件）

（第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会初等中等教育における理数教育に望まれるジェンダーの視点と、大学、企業の役割小委員会）

| 氏 名   | 所 属 ・ 職 名                          | 備 考   |
|-------|------------------------------------|-------|
| 伊藤由佳理 | 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授         | 第三部会員 |
| 大島 まり | 東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授              | 第三部会員 |
| 大場みち子 | 公立はこだて未来大学システム情報科学部情報アーキテクチャ学科教授   | 第三部会員 |
| 関根 千津 | 株式会社住化技術情報センター代表取締役社長              | 第三部会員 |
| 玉田 薫  | 九州大学先導物質化学研究所主幹教授・副学長              | 第三部会員 |
| 野尻美保子 | 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授 | 第三部会員 |
| 堀 利栄  | 愛媛大学副学長・大学院理工学研究科教授                | 第三部会員 |
| 伊藤 貴之 | お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授           | 連携会員  |
| 河野 銀子 | 山形大学学術研究院教授                        | 連携会員  |
| 斎藤 毅  | 東京大学大学院数理科学研究科教授                   | 連携会員  |
| 横山 広美 | 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授         | 連携会員  |

【設置：第 316 回幹事会（令和 3 年 9 月 30 日）、決定後の委員数：11 名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

|   | 団体名  | 概 要   |
|---|--|---|
| 1 | 九州公私立大学音楽学会<br>( <a href="http://kppuma.org/index.html">http://kppuma.org/index.html</a> ) | 本団体は、九州の公私立大学・短期大学が、大学の垣根を超えて協調し、研究活動や音楽教育を行うことを目的とするものである。 |
| 2 | 絵本学会<br>( <a href="https://ehongakkai.com/">https://ehongakkai.com/</a> )                  | 本団体は、絵本に関する学術研究の推進および絵本に関わる諸活動を目的とするものである。                  |

## 令和3年度代表派遣実施計画の変更及び会議派遣者の決定について

以下のとおり、令和3年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定を行う。

|   | 会議名称   | 会 期  | 開催地/<br>形式等                              | 派遣候補者<br>(職名)                                   | 内 容   |
|---|--|--|--|---|---|
| 1 | International Conference<br>on Urban Health 研究集会 | 11月3日<br>～<br>11月5日                              | 浙江省安吉<br>(中国)<br>↓<br>オンライン              | 中村 桂子<br>連携会員<br>(東京医科歯科大学大学院国際保健医<br>療事業開発学教授) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣者の決定</li> </ul> ※実施計画については第308<br>回幹事会(令和3年2月25日)<br>にて承認済み。  |
| 2 | 哲学系諸学会国際連合<br>(FISP)運営委員会及び付帯<br>コンフェランス         | 7月5日<br>～<br>7月12日<br>↓<br>12月11日<br>～<br>12月14日 | ハノイ<br>(ベトナム)<br>↓<br>コペンハーゲン<br>(デンマーク) | 納富 信留<br>連携会員<br>(東京大学大学院人文社会系研究科教授)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣者の決定</li> <li>・会期の変更</li> <li>・開催地の変更</li> </ul> ※実施計画については第308<br>回幹事会(令和3年2月25日)<br>にて承認済み。<br>※開催形式について調整中 |

公開シンポジウム「戦後アジアの地域再編と学術の共同—分断・協調・再分断  
を超えて—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会アジアの地域協力と学術ネットワーク構築分科会
2. 共 催：京都大学東南アジア地域研究研究所、  
東京大学グローバル地域研究機構韓国学研究センター  
(以上承認) (以下 TBA)  
早稲田大学、神奈川大学、琉球大学
3. 後 援：朝日新聞社
4. 日 時：令和3年12月4日(土) 12:45～17:45
5. 場 所：オンライン開催(1部、3部日本、2部国際セッション)  
※日本学術会議講堂が使用可能であればハイブリッドでの開催の可能性あり
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

第2次世界大戦が終焉して、早や76年がたつ。その間東アジアは、アメリカ・欧州と連動しながら、冷戦：冷戦の終焉：新冷戦—分断・協調・再分断を経験し、現在に至っている。

第二次世界大戦は、日本と近隣諸国との関係においては、日本の大陸侵攻という不幸な歴史がありその歴史的トラウマが戦後から現在まで続いている。また、戦後和解とエネルギーの共同によって、不戦共同体・統合を実現してきた欧州も、近年は問題が顕在化している。

冷戦の終焉後、地域経済共同の進展によって遅ればせながら、世紀転換期に、世界とアジアに広がった ASEAN, APEC, RCEP, CPTPP などの地域協力・地域共同関係は、中国の急速な経済・IT 技術・軍事技術発展を背景とする地政学的環境の変化により、ここ 10 年間で極めて悪化し、むしろ東アジアの新冷戦とでも呼べるような状況を呈している。

そうした中で、脈々と続いてきた、経済関係、学術的連携も現在暗礁に乗り上げているように見える。

東アジアにおける分断・協働・再分断の中、学術会議を中心とする、学術的な二国間関係、多国間連携の試みはこれを乗り越え繋ぐことができるだろうか。

本シンポジウムでは、第2次世界大戦下から3段階にわたる、分断・統合・

再分断の波の中における、日本とアジアの国際関係と学術関係の非対称の中から、3つのセッションにより、現状と展望を探る。

- 1) 戦争と戦後の日中韓三国関係と地域共同の枠組み
- 2) ロシア・モンゴル・朝鮮半島・インド：新たなアジア関係  
Russia, Mongolia, Korean Peninsula, India: New Asian Relations
- 3) 東アジアの地域秩序の変容－中国およびアメリカの戦略と域内の論理」

## 8. 次 第：

学術会議挨拶

12:45 学術会議会長

梶田 隆章（日本学術会議会長、東京大学宇宙線研究所・教授）

12:50 第1部 副部長

溝端 佐登史（日本学術会議会員、京都大学名誉教授・経済研究所特任教授）

12:55 趣旨説明 分科会委員長

羽場 久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学名誉教授、神奈川大学教授）

## 第1セッション：戦争と戦後の日中韓三国関係と地域共同の枠組み

First Session: War and Postwar Japan-China-Korea Trilateral Relations and Regional Joint Framework

13:00－ 貴志 俊彦（日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研究研究所教授） 第1部 総合司会

13:00 1) 稲森 雅子（九州大学大学院専門研究員）

『開戦前夜の日中学術交流 民国北京の大学人と日本人留学生』

13:10 2) 木宮 正史（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

『国際政治における韓国政治のダイナミズムと学術共同』

13:20 3) 我部 政明（日本学術会議連携会員、琉球大学名誉教授）

『戦後日米関係と沖縄をめぐる安全保障』

13:30 4) 大日方純夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）

『未来をひらく歴史－日中韓連携の継続的発展』

13:40-14:00 (20分) (討論)

第2セッション：ロシア・モンゴル・朝鮮半島・インド：新たなアジア関係  
Second Session, Russia, Mongolia, Korean Peninsula, and India: New  
Asian Collaboration

14:00- Chair Kumiko Haba (SCJ Associate member, Emeritus  
Professor of Aoyama Gakuin University, Professor of Kanagawa  
University)

14:00 1) 清水 武則 (元モンゴル大使、中央大学特別招聘教授)

Takenori Shimizu (Former Ambassador of Mongolia, Eminent  
Professor of Chuo University)

「モンゴル民主化後の日・モンゴル連携と将来展望」

Japan-Mongolia Cooperation after Mongolia's Democratization  
and Prospects for the Future

14:10 2) Viktor Larin (Academician of Russian Academy of Sciences,  
Vice-chairman of Far-Eastern branch of RAS)

Russian Far East Asian Strategy and collaboration with Asia

14:20 3) Korean Peninsula: Sang Chul Park (Professor of Korea  
Polytechnic University)

RCEP, CPTPP・ADB and East Asian Collaboration

14:30 4) India: Pradeep Chauhan (Associate Professor of Kurukshetra  
University)

SAARC, BIMSTEC and Academic Collaboration of South Asia

14:40-15:00 (20分) (討論) Discussion

15:00-15:30 (30分) 休憩 Coffee Break

第3セッション：東アジアの地域秩序の変容－中国およびアメリカの戦略と域  
内の論理」

Third Session: Transformation of East Asian Regional Order: China and  
American Strategy and the Logic in this Region

15:30- 三重野 文晴 第3部 総合司会

15:30 1) 三重野 文晴 (日本学術会議連携会員、京都大学東南アジア地域研

究研究所教授)

『東南アジアの経済発展と金融協力』

15:40 2) 金山 直樹 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法科大学院  
名誉教授)

「国際法枠組みによるアジアの地域秩序形成」

15:50 3) 高原 明生 (東京大学大学院教授)

「現代中国の内政と外交」『中日関係史 1978-2008』

16:00 4) 羽場 久美子 (日本学術会議連携会員、青山学院大学名誉教授、神  
奈川大学教授)

「アメリカの東アジア戦略：「価値の同盟」QUAD と東アジア」

*100 years of World Wars, How to create New World Order?*

16:10-16:30 (20分) (討論)

\*\*\*\*\*

16:30-17:30 総合討論 (司会) 我部 政明 (日本学術会議連携会員、琉球大  
学名誉教授)

16:30-16:40 コメント 沢村 互 (朝日新聞論説委員、前アメリカ総局長、元  
欧州総局長)

「アメリカからみたアジアメディアの役割」

17:30 閉会の辞

小長谷 有紀 (日本学術会議会員、独立行政法人日本学術振興  
会監事)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

## 公開シンポジウム「グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本植物保護科学連合
3. 日 時：令和3年12月4日（土）13：00～16：50
4. 場 所：Zoom によるオンライン開催
5. 分科会の開催：開催予定

## 6. 開催趣旨：

コロナ禍からの復興とともに地球温暖化の防止や生物多様性保全の実現を通して持続可能な社会の構築を目指すグリーンリカバリーが注目されている。農業はCO<sub>2</sub>を排出し生態系へのインパクトも大きい産業であるが、一方で食料の安定供給は一層重要な課題となっている。本シンポジウムでは作物生産において生産性を維持しながらグリーンリカバリーやカーボンニュートラルにどのような寄与ができるかについて議論し、理解を深める。

## 7. 次 第

13：00 開会挨拶

松本 宏（日本学術会議第二部会員・植物保護科学分科会委員長 筑波大学名誉教授）

13：10～13：45

グリーンリカバリーに貢献する持続可能な害虫防除-天敵利用を中心として-

日本 典秀（京都大学大学院農学研究科教授）

座長：徳田 誠（佐賀大学農学部准教授）

13：45～14：20

グリーンリカバリーに資する植物病害防除法の開発基盤-抵抗性誘導剤と微生物農薬-

能年 義輝（岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授）

座長：山次 康幸（東京大学農学生命科学研究科教授）

14：20～14：55

みどり戦略における緑肥活用の意義

荒木 肇（新潟食料農業大学 食料産業学部教授）

座長：水口 亜樹（日本学術会議連携会員・福井県立大学生物資源学部准教授）

14：55～15：10（休憩）

15：10～15：45

植物ホルモン・アブシシン酸の機能調節による耐乾性制御

岡本 昌憲（宇都宮大バイオサイエンス教育研究センター准教授）

座長：岡田 憲典（東京大学農学生命科学研究科准教授）

15：45～16：20

グリーンリカバリーを目指したネオオーガニック

松田 一彦（近畿大学農学部 応用生命化学科教授）

座長：塩月 孝博（島根大学生物資源科学部教授）

16：20～16：50 総合討論

司会：渡辺 京子（日本学術会議連携会員・玉川大学農学部教授）

16：50 閉会

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム「第11回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同  
計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人 CAE 懇話会、  
一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、  
一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、  
日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、  
アジア太平洋計算力学連合 (Asian Pacific Association for  
Computational Mechanics, APACM)、国際計算力学連合  
(International Association for Computational Mechanics,  
IACM)
3. 協 賛：公益社団法人日本自動車技術会自動車技術会
4. 日 時：令和3年12月6日(月) 10:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂及びオンライン(ハイブリット開催)  
(利用する会議室数1、使用目的：計算科学シミュレーションと  
工学設計分科会と計算力学小委員会の合同開催)
6. 分科会等の開催：計算科学シミュレーションと工学設計分科会と計算力学  
小委員会の合同開催
7. 開催趣旨：我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代  
表する若手研究者が最新の成果を披露する。さらに、「SDGs に貢  
献する計算力学の役割と今後—デジタル技術を活用した産業と社  
会の持続的な発展」をテーマに2件の特別講演をいただいたうえ  
で総合討論を実施する。日本における幅広い計算力学研究の現状  
と将来展望をまとめて聞くことができる貴重な機会となる。
8. 次 第：  
総合司会：越塚誠一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科  
システム創成学専攻教授）  
古田一雄（東京大学大学院工学系研究科レジリエンス工学研究  
センター教授）

10:00-10:10 開会の辞:

吉村 忍 (日本学術会議第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科システム創成学専攻教授)

第 I 部 若手研究者による講演

10:10-10:30 講演 1 (日本計算力学連合)

乙黒雄斗 (東京理科大学理工学部機械工学科 助教)

「移動境界流体問題の Space--Time 法による定式化と複雑形状における Isogeometric 離散化」

10:30-10:50 講演 2 (日本機械学会計算力学部門)

倉橋貴彦 (長岡技術科学大学機械創造工学専攻 准教授)

「非破壊打撃試験に対する逆解析の適用」

10:50-11:10 講演 3 (日本計算数理工学会)

鈴木康祐 (信州大学工学部機械システム工学科 准教授)

「埋め込み境界-格子ボルツマン法を用いた移動境界を伴う熱流動解析」

11:10-11:30 講演 4 (日本応用数理学会)

宇田智紀 (東北大学材料科学高等研究所 助教)

「流線トポロジー解析の手法と応用」

11:30-13:00 昼休み

13:00-13:20 講演 5 (日本計算工学会)

大山 聖 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 准教授)

「多目的最適化の未来」

13:20-13:40 講演 6 (日本シミュレーション学会)

小林知嵩 (早稲田大学大学院基幹理工学研究科 大学院博士課程)

「確率論的運動量保存則を用いた微小粒子の分裂解析について」

13:40-14:00 講演 7 (可視化情報学会)

松岡大祐 (国立研究開発法人海洋研究開発機構 副主任研究員)

「機械学習の目で可視化する気象シミュレーション・衛星観測の表現能力」

14:00-14:20 講演 8 (CAE 懇話会)

北畑雅弘 (東レ株式会社先端材料研究所 研究員)

「大規模分子シミュレーションによる高分子設計」

14:20-14:40 休憩

第 II 部 特別企画「SDGs に貢献する計算力学の役割と今後 —デジタル技術を活用した産業と社会の持続的な発展—」

14 : 40-15 : 10 特別講演 1

高橋桂子 (日本学術会議連携会員、早稲田大学総合研究機構 上級研究員・研究員教授)

「人と地球の関りからサステイナブルな環境を創造する —マルチスケール・マルチフィジックスシミュレーションと予測—」

15 : 10-15 : 40 特別講演 2

高田保之 (九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 教授)

「高圧水素の熱的課題と熱物性値測定 —水素充填シミュレータの開発に関連して—」

15 : 40-16 : 50 総合討論

モデレーター 大出真知子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構 主任研究員)

パネリスト 矢川元基 (日本学術会議連携会員、原子力安全研究協会、東京大学・東洋大学名誉教授)

16 : 50-17 : 00 閉会の辞

平野 徹 (ダイキン情報システム株式会社シニアスキルスペシャリスト)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

シンポジウム事務局 古田一雄  
furuta@rerc.t.u-tokyo.ac.jp

(下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員)

## 公開シンポジウム

「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、健康・生活科学委員会看護学分科会、経済学委員会ワークライフバランス研究分科会、若手アカデミー

2. 共 催：日本看護系学会協議会（調整中）

3. 後 援：日本助産学会

4. 日 時：令和3年12月11日（土）13：30～16：00

5. 場 所：オンライン及びYou Tube

6. 分科会の開催：開催予定（シンポジウム当日に分科会を開催）

7. 開催趣旨：

少子高齢人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。また、地域においては、相互に支え合う機能が脆弱化し、新たな問題に対して地域の力を発揮することにも限界が見られている。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが追い打ちをかけ、医療崩壊や介護崩壊など、様々な機能崩壊が現実の課題として突き付けられている。こうした状況においては、互いに支え合う〈ケア〉が重要な意味をもつであろう。

我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多学問分野および問題に関係する市民、行政、企業等と連携・協働して、〈新しいケア〉のあり方を模索し、共に作り上げていくことを意味する。その中で科学者の地域貢献に関する役割を可視化する。この取り組みによって、「相互支援＝ケア」を基盤にもつ「地域共生社会」を構築し、持続可能な地域社会と健康で豊かな生活の実現をめざす。

本シンポジウムは、コロナ禍において脆弱で喫緊の対策が必要な領域の、ケアに関わる先駆的な多分野共同研究および課題への具体的な取り組みをシリーズで紹介し、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探り、関連する学問分野がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

シリーズ企画の第2弾では、新型コロナウイルス感染症の拡大抑制下における**妊娠・出産・育児、暮らしと住まい、働き方の変化**に焦点を当てた話題提供を行う。具体的には、①助産師と当事者の立場からみた妊娠、出産、育児期にある女性と家族への支援、およびその形の変化、②建築の専門家が再考する、暮らしはイエに完結せず、ケアとも分かちがたいという視点からみた住まい、③労働経済学の視点から検討する、在宅勤務等の増加と子どものいる世帯員の幸福度、について報告する。また、若手アカデミー地域活性化に向けた社会連携分科会メンバーが総合討論に参加し、若手科学者の課題意識と分科会における取り組みを踏まえ討論を深め

る。

多くの参加者の皆様と課題を共有し、より現実的な提案となるよう議論したい。

## 8. 次 第：

司会 西村 正治（日本学術会議第二部会員、北海道呼吸器疾患研究所 代表理事 / 北海道大学名誉教授）

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

13：30 挨拶

武田 洋幸（日本学術会議第二部部長、東京大学教授）

13：40 第1回公開シンポジウム「With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み」の概要

西村 ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

13：50 助産学・当事者から見たコロナ禍の妊娠、出産、育児

新福 洋子（日本学術会議連携会員・若手アカデミー会員、広島大学大学院医系科学研究科教授）

14：10 コロナ禍にみる「暮らしのうつわ」としての住まい

山田あすか（日本学術会議連携会員・若手アカデミー会員、東京電機大学未来科学部建築学科教授）

14：30 コロナ禍後の働き方と家事分担の変化と生活満足

永瀬 伸子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授）

（休憩）

15：10 総合討論

指定討論

近藤 康久（日本学術会議連携会員・若手アカデミー会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授）

16：00 閉会

## 9. 関係部の承認の有無：第一部、第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

## 公開シンポジウム

「科学的知見創出に資する新可視化技術に向けて(7)」の開催について

1. 主 催：総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人芸術科学会、公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）、一般社団法人情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ・コミック工学研究会
3. 後 援：日本自動車技術会、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会
4. 日 時：令和3年12月13日（月）  
13：00～17：30 公開シンポジウム
5. 場 所：オンライン開催（主催会場：立命館大学アート・リサーチセンター）
6. 分科会等の開催：開催予定  
あり。科学的知見の創出に資する可視化分科会開催 11:30～12:50

## 7. 開催趣旨：

ビッグデータ・オープンデータ時代において、可視化の重要性はますます顕著になってきている。また、人工知能時代の到来により、可視化に対して、さらなる期待が加わった。しかしながら、可視化をどう評価するか、可視化研究コミュニティをどう形成していくか、そして科学教育に可視化をどう活用するのがよいかについては、十分な議論が行われているとは言い難い。また、人類の幸せのための方法論創造のために、社会からの期待をどのように俯瞰したらよいか明らかではない。これらを明確にすべく本分科会に4つの小委員会を設けて活動しているが本シンポジウムは各小委員会の活動について各委員長が述べた後、所期の達成に今後更に何をどのように推進していくべきかなど出席者交えて議論したい。

## 8. 次 第：

- 13:00-13:05 開会の挨拶  
小山田 耕二 (総合工学委員長、日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)
- 13:05-13:50 藤代一成 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部情報工学科教授)  
 可視化の新パラダイム策定小委員会の活動
- 13:55-14:40 田中覚 (日本学術会議連携会員、立命館大学情報理工学部教授)  
 ICT時代の文理融合研究を創出する可視化小委員会の活動
- 14:45-15:30 伊藤貴之 (日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)  
 社会に資する可視化の小委員会の活動
- 15:35-16:20 跡見順子 (日本学術会議特任連携会員、東京農工大学客員教授・東京大学名誉教授)  
 細胞-身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会の活動
- 16:25-17:25 総合討論—科学的知見創出に資する新可視化技術を目指して  
 モデレーター：竹島由里子 (東京工科大学教授)、  
 清水美穂 (東京農工大学客員准教授)、  
 パネリスト、各小委員会委員長、小山田耕二、萩原一郎
- 17:25-17:30 閉会の挨拶  
萩原 一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授・東京工業大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

- ・申し込み方法：参加者が Web ページ経由で申し込む
- ・申込み用 URL はシンポジウムポスター等に掲載予定
- ・参加者定員：200 名
- ・連絡先：立命館大学情報理工学部 田中覚 (stanaka@is.ritsume.ac.jp)

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

## 公開シンポジウム

「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」の開催について  
(連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第2回)

1. 主 催: 日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
2. 後 援: 文部科学省、厚生労働省、内閣府男女共同参画局、国立研究開発法人科学技術振興機構、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本看護系学会協議会、一般社団法人日本医学会連合、一般社団法人日本歯科医学会連合、一般社団法人日本農学会、生活科学系コンソーシアム、生物科学学会連合、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、男女共同参画学協会連絡会、全国ダイバーシティネットワーク (以上、予定)
3. 日 時: 令和3年 12 月 19 日(日) 14:00～18:00
4. 場 所: オンライン開催
5. 分科会の開催: 開催予定なし

## 6. 開催趣旨:

生命科学分野は、保健(医学、歯学、薬学、看護学など)、家政学、農学、基礎生物学など多様な分野であり、女性の比率も大きく異なるが、総じて管理職の女性比率は学生の比率に比べて極めて低い。2020年に日本学術会議から発出した提言「社会と学術における男女共同参画の実現を目指して—2030年に向けた課題—」のなかで、生命科学分野における男女共同参画の課題として、大学院に進学する女子学生の増加、上位職の女性教員の増加、大学・学協会の執行部への女性の参画とそのためのポジティブ・アクションの積極的な導入が挙げられた。一方、多くの学協会においてジェンダー・ダイバーシティへの取り組みが進みつつあるが、その進捗状況や学協会間の連携には差異がある。また、大学における研究、上位職、執行部への女性の参画を推進するためには、生命科学分野の各領域に応じた取り組みも必要となる。そこで、今回のシンポジウムでは、ロールモデルとなる大学、学協会の取り組みを紹介していただき、さらに企業で女性活躍推進に貢献されてきた女性役員の方々に特に意識改革についての示唆をいただきたい。

次のような観点からのご講演をお願いしたい。

大学から(生命科学分野の各領域に応じたとりくみも含めて)

- ジェンダー・ダイバーシティに関する教育
- 女性の大学院進学を推進する取り組み
- 上位職の女性教員の増加へ向けた取り組み(評価方法の改革など)
- 執行部への女性の参画推進の取り組み
- 女性研究者のキャリア形成、維持、向上のための取り組み(研究環境の改善など)

企業から

- 男女管理者の意識改革の取り組みとその成果
- 女性のリーダーシップ醸成(女性に自信を持たせるには)

学協会から

- 女子学生の生命科学研究への参画推進の取り組み
- 女性研究者のキャリア形成、維持、向上のための取り組み

- 執行部への女性の参画推進の取り組み
- ダイバーシティ推進の取り組み
- 学協会間の連携

## 7. 次 第:

### ◆挨拶

14:00～14:05 主催者挨拶: 望月 眞弓(日本学術会議副会長・慶應義塾大学名誉教授)

14:05～14:15 主賓挨拶: 千原 由幸(文部科学省科学技術・学術政策局長)

主賓挨拶: 山田 雅彦(厚生労働省雇用環境・均等局長)

### ◆趣旨説明: 14:15～14:20

名越 澄子(日本学術会議第二部会員・埼玉医科大学総合医療センター教授)

### ◆シンポジウム: 14:20～14:50

14:20～14:50 「名古屋大学における男女共同参画推進の取り組みー名古屋大学での好事例ー」  
松尾 清一(名古屋大学総長)

14:50～15:20 「私立総合大学におけるダイバーシティ&インクルージョン ～立命館大学の取組み～」

仲谷 善雄(立命館大学総長)

15:20～15:50 「イノベーションの源泉となるダイバーシティ&インクルージョンの取り組み」

梶原 ゆみこ(富士通株式会社執行役員常務 CSO(兼)サステナビリティ推進本部長)

15:50～16:20 「キリングループの多様性推進の取り組み」

神崎 夕紀(協和発酵バイオ株式会社常務執行役員経営企画部長)

16:20～16:50 「学協会におけるジェンダー・ギャップと女性研究者活躍推進に向けた取り組み」

裏出 令子(京都大学複合原子力科学研究所特任教授)

16:50～17:20 「東北大学におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進」

大野 英男(日本学術会議連携会員・東北大学総長)

### ◆休憩: 17:20～17:30

### ◆パネルディスカッション: 17:30～18:00

司会: 名越 澄子(再掲)

パネリストは前述の講演者の6名

## 8. 関係部の承認の有無: 第二部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

※本学術講演会は8月幹事会にて承認を受けたが、開催日が延期後の総会日程と同日になったことから、学術講演会の日程を変更するもの。

日本学術会議中部地区会議学術講演会  
『SDGsに向けた大学の取り組み』の開催について

1. 主 催 日本学術会議中部地区会議
2. 共 催 名古屋大学
3. 日 時 **令和3年12月25日(土)** 13:00～16:30
4. 場 所 名古屋大学(名古屋市千種区不老町1)  
※オンライン開催
5. 開催趣旨 SDGs(持続可能な開発目標)は2015年に国連総会が決議した「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた目標です。この目標の達成に向けて行政や企業、市民社会の活動が活発化しています。大学においてもSDGs目標達成に向けての取り組みが行われてきています。しかし、日本学術会議の報告「学術とSDGsのネクストステップー社会とともに考えるためにー」で指摘しているように、その活動をSDGsの17の目標に「紐付け」るレベルで留まっている現状があります。2030年の目標達成に向けて大学にはさらに進んだ取り組みが求められています。ここでは、さらに進んだ取り組みの事例とさらに進めるためのヒントをご紹介します。
6. 次 第
  - (1) 13:00～13:10 開会挨拶  
名古屋大学総長 松尾 清一
  - (2) 13:10～13:20 主催者挨拶  
日本学術会議中部地区会議代表幹事 池田 素子  
(日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)
  - (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告  
中部地区科学者懇談会代表幹事 松田 正久
  - (4) 13:30～16:25 学術講演会の演題及び演者  
  
『SDGsに向けた大学の取り組み』
    - ・講演「SDGsの達成に向けて大学は何ができるか」  
日本学術会議副会長、  
東京大学未来ビジョン研究センター教授 高村ゆかり
    - ・講演「そもそも「維持可能な」開発目標とは何なのか？」  
日本学術会議連携会員、  
名古屋大学大学院経済学研究科教授 齊藤 誠

- ・講演「大学の活性化戦略としての男女共同参画の推進」  
日本学術会議連携会員、  
名古屋大学副総長・大学院生命農学研究科教授 東村 博子

(5) 16:30 閉会挨拶 (司会)  
日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 野口 晃弘  
(日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授)

(下線 の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

公開講演会  
「歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ～課題と展望について～」  
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会、病態系歯学分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
2. 共 催：一般社団法人日本歯科医学会連合
3. 後 援：生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和4年1月13日（木）17：00～19：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

我が国のジェンダーギャップ指数2021は世界156か国中120位（前年度121位）で、主要7カ国（G7）では引き続き最下位である。この背景には政治参画における男女差が指摘されている。また、科学技術学術分野の男女共同参画についても、大学における女性研究者支援を軸とする政策が開始され15年近く経つが、女性研究者の割合は先進国のなかで最低である。

歯学領域においては、近年女子学生の割合が増加し、なかには50%に達している大学もあり、博士修了者の数も年々増加している。しかし、依然女性教員の数、特に教授職など上位職における女性の割合は医学部に比べても顕著に低い。また、学会や歯科医師会で役員につく者の数も少ない。

我が国の歯科医療や歯学研究が国際的に高いレベルを維持し、発展するためには人種性別を問わず優秀な人材を集め育成し、活躍の場を提供することが重要である。本シンポジウムでは歯学領域におけるジェンダーギャップの現状を共有し、男女共同参画を実現するための課題と展望について多角的に議論するものである。

8. 次 第：

- 1) 17：00 開会挨拶

市川 哲雄（日本学術会議第二部会員，歯学委員会委員長）

住友 雅人（日本歯科医学会連合理事長）

- 2) 17：05 シンポジウム

座長：樋田 京子（北海道大学大学院歯学研究院，

日本学術会議連携会員，病態系歯学分科会）

川口 陽子（日本歯科医学会連合副理事長）

講師：熊谷 日登美（日本大学生物資源科学部，第二部会員、  
第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会委員長）

樋田 京子（北海道大学大学院歯学研究院）

久保庭 雅恵（大阪大学大学院歯学研究科）

田村 文誉（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック）

18：45～18：55 総合討論・質疑応答

3) 19：00 総括、閉会挨拶

村上伸也（日本学術会議第二部会員，歯学委員会幹事，病態系歯学分科会委員長）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催委員会・分科会委員）

## 公開シンポジウム「コロナ禍での感覚器障害のリスク」の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会
2. 共 催：公益財団法人日本眼科学会、一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年1月25日（火）14：30～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定なし

## 7. 開催趣旨：

新型コロナウイルス感染症の流行により、嗅覚、味覚、視覚をはじめとする感覚器障害のリスクが高まっている。その要因は次の3つに大別される。一つは、新型コロナウイルス感染症により、感覚器が直接的に障害されるリスクである。新型コロナウイルス感染症の症状として、先行して急性の嗅覚障害や味覚障害を自覚することがある。一方で、臭いや味が分からなくなる病気のほとんどが、新型コロナウイルス感染症とは無関係であることも事実である。本講演会では、嗅覚障害や味覚障害を自覚した場合の適切な対応を中心に紹介したい。二つめは、感染を恐れるあまり、受診控えによって感覚器疾患が重症化するリスクである。感覚器には適切な経過観察や継続した治療を受けなければ回復不可能となる重大な疾患も多く存在する。本講演会では、眼科での実例に基づき、患者の自己判断の危険性について啓発したい。三つめは、外出自粛生活により、屋内で過ごす機会が増え、リモートワーク、リモート学習が急速に普及したことによる影響である。特に環境変化に対する感受性の高い小児の視覚障害が問題になっている。自粛生活で酷使しがちな目を守るために必要なことを紹介したい。With コロナの時代において人々の社会生活や日常生活に深くかかわる感覚器の重要性を啓発し、その健康を維持・増進するための適切な情報を提供することで、社会貢献を果たしたいと考えている。

## 8. 次 第：(予定)

座長：寺崎 浩子（日本学術会議第二部会員、  
名古屋大学未来社会創造機構特任教授）  
山嵜 達也（日本学術会議連携会員、  
東京大学医学部耳鼻咽喉科学教室教授）

## 14:30 開会挨拶

村上 信五（名古屋市立大学特任教授、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事長）

14:40 講演・質疑応答

14:40～15:10 テーマ1：コロナで起こる嗅覚障害

演者：森 恵莉（東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科学教室講師）

15:10～15:40 テーマ2：コロナで起こる味覚障害

演者：任 智美（兵庫医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室講師）

<休憩>

15:50～16:20 テーマ3：コロナ禍で再考 ―自己判断による眼疾患の重症化―

演者：外園 千恵（日本学術会議連携会員

京都府立医科大学眼科学教室教授）

16:20～16:50 テーマ4：コロナ禍で変わる日常、子どもの目をどう守るか？

演者：仁科 幸子（国立成育医療研究センター眼科診療部長）

16:50 閉会挨拶

大鹿 哲郎（筑波大学医学医療系眼科教授、日本眼科学会理事長）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」の  
開催について

1. 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分  
科会、文部科学省科研費 新学術領域研究「進化制約方向性」総括班
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年1月29日（土）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会の開催：開催予定（なし）
7. 開催趣旨：大学学部生、大学院生、一般を対象とする本シンポジウムを開催す  
ることにより、動物科学の振興を図る。
8. 次 第：
  - 13:00 開会の辞  
寺北 明久（日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授）
  - 13:05 甲虫の多様性解明における最後の砦、ヒゲブトハネカクシ  
丸山 宗利（九州大学総合研究博物館准教授）
  - 13:35 ゲノムから探る！母なる海から離れたトゲウオたちのサバイバル術  
石川 麻乃（日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科准教  
授）
  - 14:05 アゲハチョウの訪花行動における視覚の役割  
木下 充代（総合研究大学院大学先導科学研究科准教授）
  - 14:35-14:45 （休憩）
  - 14:45 動物の行動・生理を制御するフェロモン：ヒトにはあるか？  
東原 和成（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教  
授）

15:15 進化のなかで形はどう変わるのか

倉谷 滋（日本学術会議連携会員、理化学研究所倉谷形態進化研究室）

15:45 総合討論

（司会）深津 武馬（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所首席研究員）

16:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム  
「いま「戦争」を考える——社会学・社会福祉学の視座から」  
の開催について

1. 主 催： 日本学術会議社会学委員会
2. 共 催： 社会学系コンソーシアム
3. 後 援： なし
4. 日 時： 2022年1月29日（土）13：30～16：30
5. 場 所： オンライン開催
6. 分科会等の開催： 開催なし

7. 開催趣旨：

いまコロナ禍のなかで、さまざまな社会的問題が露呈している。そうした問題が、近代以降の日本社会の軌跡、特にアジア太平洋戦争と関連づけて語られることが少なくない。このたび、社会学委員会が「いま「戦争」を考える」と題する公開シンポジウムを、社会学での多様な専門専分野の研究者ネットワーク組織である社会学系コンソーシアムと密接に連携して企画する意味もそこにある。

第二次世界大戦の終結から75年以上が経過したいま、戦争体験者の加齢が進み、「戦争を知らない世代」が大多数となった。「戦後80年」までの間に、アジア太平洋戦争での軍隊（少年兵・軍属）経験をもつ世代はもちろん、空襲や地上戦の経験をもつ世代が、日本社会からほとんどいなくなると予想される。

21世紀に入り、「対テロ戦争」の拡大、民間軍事会社の台頭、インターネット・人工知能技術に支えられた無人兵器の拡大など、戦争・軍事のあり方も大きく変容した。そして依然として、戦争は世界各地で繰り返されている。反面、現在の日本社会では全体として、戦争・軍事に関する「感度」が減衰した状態がみられる。これからのグローバル社会における日本のあり方を考える上でも、社会の構成員の戦争・軍事に対する「感度」を、これ以上鈍化させてはならないだろう。

本シンポジウムでは、理論研究・質的研究・計量研究・国際比較研究で第一線を担う研究者からの報告をもとに、戦争・軍事について社会的・社会福祉学的観点から考える機会としたい。

8. 次 第 :

|       |   |
|-------|---|
| 開会の挨拶 | <u>白波瀬佐和子</u> (日本学術会議会員、東京大学)<br>社会学系コンソーシアム次期理事長   |
| 趣旨説明  | 石原俊 (明治学院大学)  |
| 報告    | 福間良明 (立命館大学) 「戦争とメディア・大衆文化」<br>佐藤文香 (一橋大学) 「戦争とジェンダー・性暴力」<br>渡邊勉 (関西学院大学) 「戦争と階層・不平等」<br>藤井渉 (日本福祉大学) 「戦争と障害・動員・福祉」 |
| 討論    | 上野千鶴子 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)<br>野上元 (筑波大学)   |
| 司会    | 石原俊 (明治学院大学)  |
| 閉会の挨拶 | <u>有田伸</u> (日本学術会議会員、東京大学)  |

9. 関係部の承認の有無：第一部の承認

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム「将来のエネルギー科学技術に向けた  
パワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会  
エネルギーと科学技術に関する分科会、IFE フォーラム
2. 共 催：大阪大学レーザー科学研究所
3. 後 援：一般社団法人レーザー学会、  
一般社団法人プラズマ・核融合学会、一般社団法人日本物理学会  
、他（依頼予定）
4. 日 時：令和4年2月3日（木）13：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂とオンラインのハイブリッド
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会は、ハイパワーレーザーによる高エネルギー密度科学小委員会における審議結果を踏まえて、「パワーレーザー技術と高エネルギー密度科学の量子的飛躍と産業創成」と題する提言を2020年6月に公表した。この提言は以下の方策を述べている。「レーザー核融合」、「高圧物質科学」、「レーザー生成量子ビーム利用」、「レーザープロセス」等に関する研究開発が、次世代のエネルギー科学技術・産業活動への貢献とこれを担う人材育成の観点も踏まえて、激しい国際競争のもとで推進されており、我が国としてはこれらに伍して進められてきているパワーレーザー・高エネルギー密度科学の研究開発を、人材育成の観点にも力点をおいて一層強化することにオールジャパンで取り組むべきである。

このシンポジウムにおいては、この提言を受け、2050年カーボンニュートラルが唱えられている今、パワーレーザー技術と高エネルギー密度科学に係る研究開発を、我が国のエネルギー科学技術の進展に必須の新技术・新材料の創成と人材育成に寄与することも視野に入れ、相互裨益を目指す関連産業分野との連携協力を含めてどのように強化するべきかを、熱エネルギー利用や熱・電気エネルギー変換に関する科学技術分野からの入力も得て議論する。

8. 次 第：

13 : 30 前半司会

犬竹 正明 (日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授)

開会の辞

近藤 駿介 (日本学術会議連携会員、原子力発電環境整備機構  
理事長)

挨拶

日本学術会議 第三部部长 吉村忍 (日本学術会議第三部会員、  
東京大学副学長、大学院工学系研究科教授)

内閣府原子力委員会委員長 上坂充

13 : 15 講演 I

フォトリック結晶面発光レーザーの進展と展望  
—究極の半導体パワーレーザーの実現を目指して—  
野田 進 (京都大学工学研究科教授)

エネルギー科学におけるレーザープロセッシングの課題と展望  
小林 洋平 (東京大学物性科学研究所教授)

パワーレーザー・高エネルギー密度科学の課題と展望  
兒玉 了祐 (日本学術会議連携会員、大阪大学レーザー  
科学研究所所長)

14 : 45—15 : 00 ( 休憩 )

15 : 00 後半司会

三間 罔興 (日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授)

講演 II

カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー利用の現状と展望  
藤岡 恵子 (日本学術会議特任連携会員)

株式会社ファンクショナル・フルイッド代表取締役社長)

エネルギー科学技術におけるレーザー駆動量子ビームの利用  
河内 哲哉 (国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構関西光  
科学研究所所長)

エネルギー最適化に向けた東芝の取り組み  
落合 誠 (東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギー

システム技術開発センタージェネラルマネージャー)

16:00 総合討論

タイトル：将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザー技術と  
高エネルギー密度科学の役割と展望

(コーディネーター) 笹尾 真実子 (日本学術会議連携会員)

東北大学大学院名誉教授)

コメント：レーザー学会の活動について (仮題)

久間 和生 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究  
機構理事長)

パネリスト

落合誠、河内哲哉、久間和生、兒玉了祐、小林洋平、野田進、  
藤岡恵子

17:20 閉会の辞

疇地 宏 (日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授)

17:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催委員会(分科会)委員)

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第2回生科連シンポジウム「環境変動と生物多様性」

主催：生物科学学会連合

期間：令和3年12月18日(土)13時～17時

場所：生物科学学会連合事務局を拠点にオンライン開催

参加予定者数：約300人

申請者：生物科学学会連合 代表 小林 武彦

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部ともに承認

## ○今後の予定

## ●幹事会

|          |      |           |         |
|----------|------|-----------|---------|
| 第318回幹事会 | 令和3年 | 11月25日(木) | 13:30から |
| 第319回幹事会 | 令和3年 | 12月24日(金) | 13:30から |
| 第320回幹事会 | 令和4年 | 1月27日(木)  | 13:30から |
| 第321回幹事会 | 令和4年 | 2月24日(木)  | 13:30から |
| 第322回幹事会 | 令和4年 | 3月24日(木)  | 13:30から |

以降の幹事会日程は追って調整

## ●総会

第183回総会 令和3年12月2日(木)～3日(金)  
※開催方式については、検討中